

蒼穹ニュース

平成 25 年 8 月 5 日発行



走幅跳四連覇を成し遂げ、チームを牽引した主将西村

No. 4

～～～ 目 次 ～～～

1. 主 将 ・ 監 督 挨 拶
2. 七 大 戦 総 合 成 績
3. 七 大 戦 詳 細
4. 七 大 戦 記 録

主将挨拶

去る、7月27、28日に大阪府長居第二陸上競技場にて七大会が行われました。男子は128.5点で実に8年振りの優勝を果たしました。大きな点数の取りこぼしもなく事前予想を上回る結果で部員一同嬉しく思っております。

トラックでは800,1500で2冠をした櫻井(2)をはじめ予想通り強さを見せつけ、弱点とされていたフィールドでは投擲を中心にランキングを覆し、チームとして一段階成長したことを感じています。

2ヶ月後には東大会が迫っています。今年の東大会は昨年同様フィールドを中心に非常に強いです。各自七大会で得た反省を活かし油断することなく練習に励み、男女優勝を必ず成し遂げます。蒼穹会の皆様には、猛暑の中多くの方に会場で応援して頂き本当にありがとうございました。今後とも変わらぬご支援、ご声援の程よろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部主将 西村 優汰

女子主将挨拶

去る7月28日、大阪で行われました七大会にて、女子は3年連続の総合3位という結果に終わりました。それぞれが健闘しましたが、1,2位の名大、東北大とは5点の差をつけられての3位となりました。確実に得点が見込まれる種目ではしっかりと得点を挙げる事ができましたが、自己ベストを大きく更新しても得点することができない種目もあるなど、上位の大学とは実力差がありました。しかし、年々力をつけ、競技に対する意識も高まっている女子チームです。今後のレベルアップは十分に期待できますので、来年こそは必ずや男女総合優勝を成し遂げてくれるものと信じております。

さて、2ヶ月後には、関西女子駅伝、東大会が控えております。今年度は1回生の加入により中長女子パートは人数も増え、練習においても活気のあるチームになってきております。昨年度の15位以上を目指します。東大会では、女子は8連覇がかかっております。東京大には、七大会ではフィールドは負けており、また、特に中長種目において2番手の強さが見られます。決して気を抜くことなく必ずや優勝したいと思います。

最後になりましたが、猛暑の中、多くの蒼穹会員の皆様に競技場に足を運んでいただき、ご声援をいただきましてありがとうございました。非常に力になりました。今回は残念な結果となりましたが、今後ともどうか変わらぬご支援、ご声援のほどよろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部女子主将 釜谷 美翔子

監督挨拶

今年の七大戦は、7月27日28日、大阪長居にて開催されました。結果は、男子が総合優勝、女子が3位です。男子の優勝は実に8年ぶりであり、2位に60点差以上もの大差をつけた完勝でした。一方、女子は善戦するも悔しい結果に終わりました。

男子は、事前から圧勝を予想されておりましたが、去年の惜敗があったため、決して油断することなく七大戦へ臨みました。結果、大きな取りこぼしもなく、午前中から順調に得点を積み重ねました。トラックにおいては、トラック王国の名にふさわしく、ほとんどの種目においても2人以上の選手が得点し、トラックのみで90.5点獲得という快挙を成し遂げました。中でも平井幹(4)、横山裕(4)、平井健(2)による5000mスコンクは圧巻でした。また、投擲種目において林(4)、神野(4)が大きく得点し、フィールド種目でも例年以上に得点を獲得できました。しかし、なんといっても今大会のヒーローは主将西村(4)でした。幅跳びで4連覇、4×100mRにおいても連覇に貢献し、最終種目三段跳びでは最終試技で逆転優勝という、最高の結果で今年の七大戦を締めくくってくれました。

女子については、苦しい戦いの中でよく善戦しました。主将釜谷(4)の100m優勝を始めとした大活躍は見事でした。しかしチーム力としては、東北大、名大に及ばず3位という結果でした。今年も全員がベストを出しきれていれば優勝がつかめる位置にいたため非常に悔やまれます。今後優勝するために部員数を増やす、個々の実力を向上させるのはもちろんですが、今回のような苦しい闘いの中で勝てるチーム作りというものを意識していきます。

現4回生はひとまず引退です。そしてこれからどの種目においても世代交代が進みます。その中で3回生の更なる飛躍、そして新人の育成が来年度の男子2連覇、そして男女アベック優勝の鍵になると思われます。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様、今回の男子総合優勝は皆様の応援、ご支援なくしては決して成し遂げられませんでした。当日も暑い中、多くの方が応援に来て下さりどうもありがとうございました。今回の結果に満足することなく、チームとしてさらに飛躍できるよう精進いたしますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

京都大学陸上競技部監督 堀田 孝之

七大戦総合成績

(7/28 大阪長居第二陸上競技場)

第 64 回全国七大学対校陸上競技大会 対校得点

1 位	京都大	128.5 点	(T90.5 点 F 38 点)
2 位	大阪大	82 点	(T35 点 F 47 点)
3 位	東北大	64.5 点	(T41.5 点 F 23 点)
4 位	北海道大	53 点	(T18 点 F 35 点)
5 位	東京大	36 点	(T17 点 F 19 点)
6 位	名古屋大	21 点	(T21 点 F 0 点)
7 位	九州大	14 点	(T8 点 F 6 点)

第 24 回全国七大学対校女子陸上競技大会 対校得点

1 位	名古屋大	20 点	(T14 点 F 6 点)
2 位	東北大	20 点	(T10 点 F 10 点)
3 位	京都大	15 点	(T12 点 F 3 点)
4 位	北海道大	11 点	(T8 点 F 3 点)
5 位	大阪大	6 点	(T3 点 F 3 点)
6 位	東京大	4 点	(T0 点 F 4 点)
7 位	九州大	4 点	(T3 点 F 1 点)

七大戦詳細

3000mSC 決勝

久好 哲郎(4) 9.31.35 3位 PB
岡本 和晃(2) 9.50.10 7位

日差しが強く照りつけ非常に暑い中七大戦最初の種目である 3000mSC 決勝には久好、岡本の二人が出場した。スタート直後から北大東北大の二人が抜け出し久好、岡本は 3 位集団の中で前を追う展開となる。ハイペースで試合が進む中久好は積極的に 3 位集団を引っ張り、ラストで阪大の猛追にあったものの 3 位と健闘した。岡本は中盤集団から遅れるも粘りの走りで 7 位でゴールした。二人の渾身の走りは京大に勢いをもたらした。(我妻)

女子 400m 予選

釜谷 美翔子(4) 60.58
山中 遥加 (1) 64.21 ♪

射すような強い日差しの中、9:50 から行われた女子 400m 予選には釜谷、山中の両選手が登場した。一組目の釜谷は前半 100m からバックストレートにかけて伸びやかなストライドで快調に飛ばし後続と差をつける。ラストの直線に入ると、着順三位内にはいっていることを確認、前半のスピードを抜くようにして決勝進出を決めた。二組目の山中は対校戦初出場。前半スタートから多少上半身に固さがみられ、思うようにあげきれていない印象を与えるも、300 コーナーにかけて流れに乗っていき、ラストは隣のレーンの選手との競り合いに勝った。決勝進出はならなかったものの、ラストの強さから来年の対校戦には十分戦力となるようなポテンシャルをもっている。来年の対校戦に期待したい。(久米)

400m 予選

辻 智彦 (2) 49.43
庄司 真 (3) 49.90
花岡 洋祐(4) 50.44

第 1 組に出場した花岡は中盤以降、激しい 2 位争いに。ほぼ同着かという接戦にわずかに敗れたものの、他の選手の失格により 2 着で決勝進出を果たした。第 2 組には辻が出場した。他の先行を許し、ひやりとさせられたが最後の直線で本領を発揮。他の追従を許さない鋭い走りで予選通過を決めた。第 3 組には庄司が出場。余裕のある落ち着いた走りで順調に予選を通過した。七大戦序盤において、京大の 3 選手が揃って決勝進出を果たしたことでチーム全体が勇気づけられた。(岡部)

女子 走高跳 決勝

中尾 優里(3) 1.50 2位

女子走高跳には今回で 3 年連続となる中尾が出場した。最初に跳んだ 1m35 はまだ体の動きが硬くバーに触れながらの成功だったが、その後 1m40、1m45 はなんなく成功した。PB である 1m50 は 1 回目と 2 回目ともに失敗したが、後がない 3 回目でバーに触れるも成功した。中尾と渡邊（東北大）の 2 人が駒を進めた 1m55 は 3 回目でこれまでで一番の跳躍を見せたが惜しくも失敗した。優勝は 1m50 を 1 回で成功させた渡邊に持って行かれたが、中尾は自身初の 2 位表彰台を獲得した。(見鳥)

走幅跳 決勝

西村 優汰(4) 7.36 (+2.7) 優勝
石田 真也(2) 7.17 (±0.0) 3位 PB
松下 隼人(2) 7.17 (+1.4) 4位 PB

走幅跳には西村（4）、石田（2）、松下（1）が出場した。西村は早々に 7m を超える跳躍でベスト 8 を決め、石田、松下も昨年よりレベルの高い中ではあったがなんとかベスト 8 に進出。その後も西村は安定した跳躍を見せ、二位の渡辺（大阪大）との勝負となるがしっかり勝つ。西村はこの種目四連覇を達成し、主将として競技面でも活躍。期待のルーキー松下は 5 本目に 7m17 の自己ベストをマークし、それに負けじと石田もスピードを活かした助走を武器に同記録をマーク。午前中から京大を大いに盛り上げる試合であった。（俵谷）

円盤投 決勝

神野 洋介(4) 32.03 5 位 PB
山下 圭二(1) 29.32
山本 裕太(2) 29.32

暑い日差しの中行われた男子円盤投げは最初の投擲種目。神野は 3 投目、思わずガッツポーズが出る一投で決勝に残った。決勝では記録を伸ばす事ができなかったが 5 位に入り京大フィールドに貴重な得点をもたらした。山本はファールを連続させてしまい、3 投目に記録を残すも 30m 越えはならなかった。山下は一年生ながら貫禄を滲ませる投擲を見せた。4 回生神野の投擲が京大に勢いを与えたことは間違いない。山本、山下の 2 選手は決勝に残る事ができなかったが来年以降の更なる成長、得点に期待したい。（森田）

400mH 予選

蔭山 凌 (3) 54.90
佐藤 優斗(2) 55.20 PB
堀江 一司(4) 56.98

男子 400mH 予選には堀江、蔭山、佐藤が出場した。佐藤は安定したハードリングを見せ後半追いついて 2 着で予選通過。蔭山は終始余裕の走りで体力

を温存して難なく 1 着。堀江は前半ハードルに足をぶつけて遅れをとるが、ラストの直線で意地の追い上げを見せて決勝進出を決めた。三人の決勝での走りが期待されるレースとなった。（新村）

棒高跳 決勝

巽 浩之 (4) 3.60 PB
大沼 慶寿(2) 3.60

蒸し暑い中行われた男子棒高跳では、岡田は足の怪我で棄権し、大沼と巽が出場した。大学でまだ記録を残せてない大沼は開始高さを 3m60 に設定して試技に挑んだところ、高い踏切り位置と滑らかな空中動作の後に余裕をもってクリアした。3m80 での試技では、高く踏切ることが出来ず、成功に至らなかった。巽は 3m60 から試技を開始した。一本目は余裕をもってバーを越えるも、ポールを十分に押し返せず失敗。二本目は空中動作が乱れ追い込まれるが、三本目では立て直してベストを更新した。次の 3m80 では、ポールが進まず高さがあまり出なかったため、惜しくもクリア出来なかった。今回は残念ながら得点圏に絡むことは出来なかった。今後のポール選手全員の更なる飛躍に期待したい。（田中）

女子 100m 予選

釜谷 美翔子(4) 12.97 (-2.8)
藤森 光世 (2) 13.51 (-2.7)

女子 100m 予選は向い風が 3m にもなる悪条件の中行われた。1 組目で出場した藤森はレース後半の伸びが特徴だが、今回のレースでは風の影響もあったのか後半 60m 以降の伸びを欠いてしまった。2 組目の釜谷は後半 50m 以降から周りを引き離して予選出場者のうち一人 12 秒台を出し、予選をトップ通過した。（藤原）

100m 予選

牧川 真央(4)	11.08 (-1.5)
石田 真也(2)	11.26 (-3.4)
神谷 諒介(4)	11.36 (-1.3)

向かい風、日差しが強い中 100m 予選には石田、神谷、牧川が出場。石田は序盤から相手を引きちぎり、走幅跳競技中とは思えない素晴らしい走りで悠々と一着ゴールを果たした。神谷は前半着いて行くも後半で離され五着。敢えなく決勝を逃してしまった。牧川はスタートから抜きん出てそのまま相手を引き離し堂々一着。正に他を寄せ付けない驚異的な走りであった。予選は他大を圧倒。京大が決勝を支配すると誰もが予感しただろう。(小野坂)

1500m 決勝

櫻井 大介 (2)	3.56.29	優勝
平井 健太郎(2)	3.56.31	2位 PB
横山 裕樹 (4)	3.56.98	4位 PB

櫻井、平井健、横山裕が出場した 1500m は気温に負けない熱いレースとなった。序盤は櫻井が先頭でペースを作り、中盤には平井健が先頭を引っ張る。ラスト 200m では横山裕が先頭にたつという大混戦のレースは胸の差で櫻井に軍配が上がった。惜しくもスコンクはならなかったものの平井(健)、横山裕も自己ベストの走りであり、京大に大きな得点をもたらした。(足立)

砲丸投 決勝

神野 洋介(4)	10.74	3位 PB
戸川 洋一(3)	10.69	4位
山本 裕太(2)	10.22	8位

砲丸投には、神野、戸川、山本が出場した。ランキングではベスト 8 にいなかった神野と戸川だが、3 投目までの間とともに 10m50 を超える自己

ベストの投擲によってベスト 8 に進出。山本も一発目で 10m22 を出し、3 人そろってのベスト 8 進出となった。ベスト 8 となっても宮野(東京)以外の 11m 超えはいなく、実力的に山本は一発 11m 台を出せば表彰台という位置だったがファールを重ね、惜しくも記録を伸ばせず 8 位に止まった。その代わりに自己ベストからさらに記録を伸ばした神野・戸川は共に 3 位、4 位の得点圏に入った。前評判を大きく覆す 2 人の奮闘によって、砲丸投は京大の総合優勝に貢献した。(作田)



砲丸投げで 3 位入賞した神野

400m 決勝

辻 智彦 (2)	48.57	2位
庄司 真 (3)	49.41	6位
花岡 洋祐(4)	49.57	7位 PB

400m 決勝には 3 選手全員が出場した。レース序盤は 3 選手とも緩やかに加速していった。花岡は前半の 250m 辺りから内レーンの選手に遅れをとるが、最後はなんとか粘り、得点圏に入ることはできなかったものの、自己新記録のタイムで走った。庄司は序盤から遅れをとるが、後半で追い上げ、粘って、6 位にくいこんだ。辻は前半の 200m で疲れたように見えたが、そこから切り替えてスピー

ドを上げていき、そのスピードを維持したままホームストートに入り、2位でゴールした。(天野)

110mH 予選

戸川 洋一 (3) 14.58 (+2.4)
栗林 健一 (4) 15.17 (+1.8)
西田 光治 (3) 15.58 (+1.4) PB

男子 110mH 予選には西田、栗林、戸川が出場。1組目の西田は後半追い上げ、自己ベストとなる15秒58を記録したものの、5着で決勝進出には届かなかった。2組目、栗林は中盤まで3人でトップを走っていたがなんとか2着でフィニッシュし、決勝に進出した。3組目を走った戸川は序盤から加速していき、追い風参考ながらも14秒58という好記録で1着フィニッシュし、決勝進出を決めた。(佐藤)

走高跳 決勝

菅原 知紘 (4) 1.96 3位
扇澤 剛志 (3) 1.70
山田健太郎 (2) 1.70

男子走高跳には、山田、扇澤、菅原が出場。12時から14時過ぎまでの暑い時間帯に行われ、気温は36度であった。山田、扇澤はともに1m65、1m70を一回で成功させる。しかし1m75では、各回修正を施しながら跳ぶも、残念ながら失敗してしまう。菅原は1m85からスタートし、これを難なく成功。続いて1m90、1m93mも成功させる。1m96では、一回目、二回目は脚が残ってしまい失敗するも、三回目で勝負強さを見せ、見事成功した。炎天下で長時間の競技に消耗したのか、1m99は跳ぶことができなかった。(矢野)

女子 100m 決勝

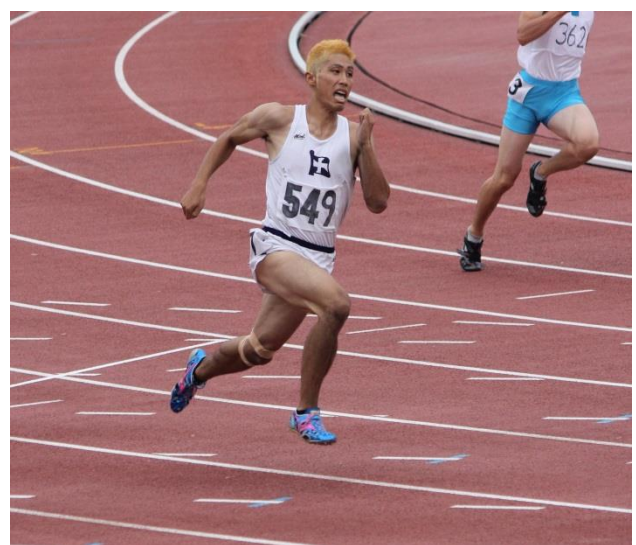
釜谷 美翔子 (4) 12.68 (-0.9) 優勝 PB **蒼穹新**

女子 100m 決勝には釜谷が出場した。予選で強い向かい風の中12秒台の好記録を出した釜谷は、その勢いそのままに決勝では中盤から他を圧倒する伸びを見せ、見事自己新、さらに蒼穹新記録となる12"68で優勝を飾った。女子主将としてチームにさらなる勢いを与える結果となった。(海老原)

100m 決勝

石田 真也 (2) 10.71 (-1.2) 優勝
牧川 真央 (4) 10.77 (-1.2) 3位

男子 100m 決勝には牧川と石田の2名が出場した。緊張感漂うスタート直前、気合を入れる牧川と静かに集中力を高める石田。号砲とともに良いスタートを切ったのは石田だった。中盤にかけてさらにスピードをあげていく。少し出遅れた牧川も隣の東北大学の選手と競り合いながら、粘りをみせ追い上げる。最後は僅差となったが、石田が逃げ切り1着。大会新記録の快走だった。牧川は4回生の意地として優勝をねらっていただけに3着という結果に悔しい様子だったが、彼の走りと思いは後に控える選手の心にも届いたに違いない。(柏本)



100m、200m、走幅跳で活躍した短距離エース石田

女子 800m 決勝

熊澤 真奈 (3) 2. 27. 80

小堂 夏希 (1) 2. 38. 29

女子 800m には熊澤 (3)、小堂 (1) が出場。風はややあったが、まずまずの条件下でスタートした。持ちタイムが非常に近い選手が多く、熊澤には好争いが期待されたが、スタート後後方についてまま、最後まで上位の争いに絡みきれずにゴールした。小堂も一周目は最後尾につけながら前の選手をびたりと追っていたが、最後は離されてのゴール。両者とも悔しいレースとなった。800 はレース経験がものをいう種目。今後に期待したい。(大井)

やり投 決勝

山本 裕太 (2) 54. 41 8 位

若園 直樹 (2) 52. 44 PB

塚原 和明 (4) 46. 44

曇り空の下行われたこの競技には、山本、若園、塚原の三人が出場した。好調の山本は、二投目で自己ベストに迫る投擲をみせベスト 8 に入るも、その後記録をのばせず、結果 8 位で得点はなかった。若園は近頃不調続きであったが、一投目で 50m を越える投擲をみせ、三投目には自己記録を更新するが、惜しくもベスト 8 には残れなかった。短距離が専門の塚原は、目標としていた 50m を越えることが出来なかった。(川島)

800m 予選

中井 一宏 (3) 1. 56. 59

櫻井 大介 (2) 1. 56. 67

市川 和也 (2) 1. 57. 24 PB

男子 800m 予選にはそれぞれの組に市川、中井、櫻井が出場した。市川は序盤から先頭付近を維持し、途中順位を落とすもスパート合戦を意地で走

り抜き、二着と健闘した。中井も同様に先頭選手の後ろにつけ、二周目に後方の選手に迫られるも、最後の直線で突き放し、二着で通過した。櫻井は先頭集団三人の後ろを走り、少しずつ順位を上げると残り 100m で先頭に立ち、無難に首位通過を果たした。これにより三人全員が決勝進出を果たし、決勝に向けてよい流れをつくった。(山下)

女子 走幅跳 決勝

金澤 和寿美 (1) 5. 12 (+1. 2) 5 位 PB

宮崎 伶菜 (3) 4. 90 (+1. 3) 8 位

女子走幅跳には金澤と宮崎が、どちらも自己ベスト更新を目指して出場した。金澤は 2 本目で 4m 91 をマークし、ベスト 8 圏内に食い込む。宮崎は 1 本目、2 本目は惜しくもファールであったが、なんとか 3 本目で足を合わせて 4. 90 を出し、2 人揃ってベスト 8 に進んだ。その後金澤は 5. 12 の自己ベストで得点圏内に入るも押し出され 5 位に終わる。宮崎は調子が合わなかったのかその後記録を伸ばすことができず、悔しい結果となった。(古矢)

400mH 決勝

蔭山 凌 (3) 53. 41 1 位タイ

佐藤 優斗 (2) 56. 16 5 位

堀江 一司 (4) 56. 61 7 位

決勝には 3 名が出場した。3 人は前半、ゆるやかな立ち上がりを見せる。前回大会でこの種目優勝している東北大の千葉などが前半から積極的なレースを展開する中、3 人はあせらず後半、徐々に先行する選手との差を埋めはじめる。「先行されても焦らず自分のレースを展開したい」と話していた蔭山はホームストレートに入ると、前を走る千葉を猛追。結果として千葉と同着ではあったものの、優勝を果たした。佐藤、堀江も最後まで粘りを見せた。(宮垣)



400mHで粘りを見せ活躍した蔭山

200m 予選

石田 真也(2)	22.25 (+0.1)
牧川 真央(4)	22.32 (-2.2)
水上 裕介(4)	22.56 (-4.2)

雲は多いが蒸し暑く、強い向かい風が吹き荒れるなかで男子 200m 予選は行われた。1 組目の牧川は、直線に入るところで、集団から一気に抜け出し、150m 付近から流しての余裕の 1 着であった。2 組目の石田も走幅跳と 100m の疲労もある中、後続の追い上げを難なくいなして 1 着でゴールし決勝に。3 組目の水上は、終盤に追い込まれ 3 着に。向風 4.2m と風にも恵まれず、+2 枠から外れ、3 人そろっての決勝進出はならなかった。(紀平)

女子 3000m 決勝

田中 友理(4)	10.15.16	3 位
三村 有葉(4)	11.57.25	

女子 3000m には最後の七大戦となる田中、三村の 2 人が出場した。レースは序盤から名大の鈴木が先頭で独走。田中は第二集団の前方で様子を窺う。三村は早い段階で集団から離されてしまい、苦しい展開となったが、4 回生としての思いのこもった粘りの走りを見せてくれた。田中は残り一周で

集団の前に出るも、抜き返され結果は三着であった。2 位を逃したのは惜しかったものの、目標であった初めての表彰台で、京大女子に昨年以上の得点をもたらしてくれた。(小林)

女子 砲丸投 決勝

熊澤 真奈(3)	7.01
宮崎 伶菜(3)	6.87

女子砲丸投には昨年同様に熊澤、宮崎が出場。宮崎は競技開始直前まで走幅跳に出場しており、非常に厳しいタイムスケジュールであった。両名とも専門外かつ多種目出場の難しさの中、試技ごとに記録を伸ばし、3 投目では、熊澤は 7m を越え、宮崎も 2 投目の記録を 19cm 上回る投擲を見せたものの、昨年の自らの記録を塗り替えることはできないまま、9 位、10 位で競技を終えた。(稲垣)

4×100mR 決勝

西村 優汰(4)-牧川 真央(4)	
-塚原 和明(4)-神谷 諒介(4)	41.34 優勝

女子 3000m 決勝の興奮覚めやらぬ中、男子 4×100mR の決勝が行われた。オーダーは西村・牧川・塚原・神谷。石田、岡田の怪我のため大幅な変更があったものの、七大戦最速の名を持つ京大に死角はない。号砲が鳴り、1 走の西村は走幅跳の疲れを感じさせない、主将としての力強い走りをした。2 走牧川は他大学の選手を圧倒する走りを見せバトンをつないだ。3 走塚原は怪我明けから調子を上げてきた様子で、七大戦でその走りを見せつけた。4 走神谷にバトンが渡った時には他大学に大きな差をつけており、それを維持する形で見事な勝利を収めた。七大戦で苦い思いを味わってきた 4 回生でつないだバトン。4 継での勝利は京大に勝利の流れを大きく引き寄せた。(長崎)

三段跳 決勝

西村 優汰 (4)	15.04 (+0.3)	優勝	PB
山岡 隆央 (2)	14.07 (+1.6)	8 位	
日浦 幹 (3)	13.72 (+0.1)		

昨年よりハイレベルな混戦が予想される三段跳には西村、日浦、山岡が出場した。走幅跳で四連覇を達成した西村は良い流れのまま三段跳の試技に入り、一本目にして 14m70 をマーク。今シーズン絶好調の山岡も、安定こそしていないものの 13m 後半を跳び、ベスト 8 に進出した。日浦はシーズンベストを更新する跳躍を見せるが惜しくもベスト 8 進出はならなかった。渡邊（大阪大）が 1 位のまま突入したベスト 8 では、山岡は少し記録を伸ばすが得点圏内には入れず 8 位に終わる。2 位の西村は、全員が見守るなか最終試技に臨んだ。スムーズな助走から完璧な跳躍につなげ、自己ベストとなる 15m 台にのせ 1 位をもぎとる。主将西村の脅威の大逆転劇を目の当たりにして会場はかつてないほどに盛り上がった。（俵谷）

ハンマー投 決勝

林 真幸 (4)	37.48	3 位	PB
若園 直樹 (2)	35.54	5 位	PB
近藤 耕平 (5)	24.40		

強かった日差しは陰り、暑さもやわらぐ中行われた男子ハンマー投には、近藤、林、若園が出場した。近藤は 3 投目に自己ベストとなる 24m40 を投げたが、あと少しおよばなかった。来年の活躍に期待したい。林は 1 投目に 37m 台にのせ、早くも入賞をほぼ確実なものにした。その後は力みが出て記録が伸び悩んだが、安定した投げで 3 位に入賞した。練習で好調だった若園は、2 投目に持ち記録を大幅に更新する 35m54 を投げ、5 位に食い込んだ。

三名ともランキングを上回る活躍を見せ、京大に勢いをつけた。（山下）

女子 400m 決勝

釜谷 美翔子 (4)	59.69	2 位
------------	-------	-----

朝からの強い日差しは弱まり、微風のなか行われた女子 400m 決勝には釜谷が出場した。自己ベストを出して優勝した 100m での勢いそのままに序盤から積極的に飛ばし、コーナーを抜けた時点では北大と並んでトップ。しかし連戦の疲れもあってか、ここからスピードが落ち徐々にその差を開けられる展開に。それでも追い上げる後続を振り切り、蒼穹記録である自己ベストに迫ること 0.37 秒という好タイムで 2 位でフィニッシュ。最後の七大会、本職で優勝したい気持ちはあっただろうが、蒼穹記録保持者にふさわしい素晴らしいレースで貴重な 3 点を獲得した。（高石）



100mで優勝、400mでも2位の力走を見せた女子主将釜谷

800m 決勝

櫻井 大介 (2)	1. 54. 38	優勝
中井 一宏 (3)	1. 55. 95	3 位
市川 和也 (2)	2. 04. 27	8 位

男子 800m 決勝には櫻井、中井、市川が出場した。スタート直後で中井、櫻井は先頭から 2.3 番手に、市川は後ろから 2 番あたりからのスタートとなった。一周目はほぼその状態のままの通過で櫻井、中井は虎視眈眈と先頭争いを、市川も後方から上がってくることを期待し、ラスト 200 は櫻井がきっちり抜いて一着、中井も何とか 3 着でゴールした。市川は悔しくも、8 着でのゴールとなった。(岡野)



800m、1500mでの二冠を達成した櫻井

110mH 決勝

戸川 洋一 (3)	14. 85 (-1. 3)	3 位	PB
栗林 健一 (4)	15. 26 (-1. 3)	6 位	

110mH 決勝には栗林、戸川の 2 名が出場した。栗林は序盤から他選手に先行される厳しいレース展開。最後まで粘りを見せたもののあと一步及ばず 7 位となり得点することはできなかった。戸川は好記録を出した予選の勢いそのままに、向かい風 1.3m という悪条件をはねのける力強い、キレのあるハードリングを見せ自己ベストを更新。3 位に入り得点を加え、京大の良い流れをその後の種目につなぐことができた。(備藤)

200m 決勝

牧川 真央 (4)	21. 65 (-0. 1)	2 位
石田 真也 (2)	22. 00 (-0. 1)	3 位

男子 200m 決勝には、牧川 (4)、石田 (2) が出場した。2 人とも良いスタートを切り、外のレーンとの差を順調に詰めて行く。コーナーの最後で牧川が石田を捉えたが、ここで牧川の内側の東北大の宮崎 (1) がトップに立った。牧川は後半宮崎との差を詰めたが、惜しくも僅差で負けてしまった。石田は 4 位以下の選手から逃げ切り、京大はなんとか表彰台の 2 つを占めることができた。(山木田)



短距離種目で大量得点した牧川

5000m 決勝

平井 幹	(4)	14. 46. 33	優勝
平井 健太郎	(2)	14. 50. 26	2 位
横山 裕樹	(4)	14. 52. 49	3 位

男子 5000m には平井 (幹)、横山 (裕)、平井 (健) の 3 人が出場。序盤から平井 (幹) が先頭で引っ張る。先頭集団が 8 人、5 人としぼられていく中、2000m以降は京大勢 3 人が先頭で代わる代わる牽引。ラスト 600mほどのところで名大の選手も引き離し、3 人での優勝争いに。ラスト 1 周で平井 (幹) が切り替えるとそのままどんどん差を離し、見事優勝。2 着で平井 (健) が、3 着で横山 (裕) がゴールし、見事にスコנקを達成した。終始京大勢が先頭を交代しながら独占する今回のレースにはチームの勝利にこだわる 3 人の思いが表れており、京大男子の総合優勝へ結果以上に貢献する走りとなった。(安邊)



5000mスコנקを達成した平井幹、横山裕樹、
平井健太郎

女子 4×100mR 決勝

宮崎 伶奈(3)-金澤 和寿美(2)
-藤森 光世(2)-釜谷 美翔子(4)
50. 38 2 位 蒼穹新

第一走は宮崎。力強いスタートを切り、8 レーン
の東北大との距離をみるみる縮め、第二走の金澤
にバトンを繋いだ。第二走金澤は宮崎が作ったリ
ードを守り、一回生ながら素晴らしい走りを見せ
た。次にバトンは藤森に渡し、他校と接戦を見せ
つつも綺麗なカーブを描いた。そしてラストを飾
るは四回生釜谷。釜谷は怒濤の追い上げを魅せ、
最終的には二位にまで順位をあげた。見ているこ
ちらまで白熱する素晴らしいレースであった。(山
中)

4×400mR 決勝

花岡 洋祐(4)-辻 智彦(2)-水上 裕介(4)-庄司 真 (3)
3. 17. 89 2 位

トラックの部最終種目となった 4×400mR。事前の
登録タイムより混戦が予想されたが、実際そのと
おりの混戦となった。1 走花岡がベテランらしい
安定した走りを見せ上位でバトンを 2 走の辻に渡
すと、辻が持ち前のラストスパートで一気に先頭
に躍り出た。3 走水上が落ち着いてトップのまま 4
走の庄司へバトンを渡し勝敗はアンカー勝負へも
つれこむ。庄司は善戦したがラスト数メートルで
かわされ惜しくも 2 位でフィニッシュ。悔しさの
残るレースとなった。(松下)

七大戦男子記録

100m (-1. 2)

1	石田 真也	京都大	10. 71
2	宮崎 幸辰	東北大	10.74
3	牧川 真央	京都大	10. 77
4	宮崎 孝	九州大	10.90
5	堤 亘平	北海道大	10.99
6	吉田 訓	東京大	11.03

200m (-0. 1)

1	宮崎 幸辰	東北大	21.54
2	牧川 真央	京都大	21. 65
3	石田 真也	京都大	22. 00
4	山田 遼作	大阪大	22.49
5	稲葉 啓人	東京大	22.59
6	小西 慶治	東京大	22.61

400m

1	南 共哉	東北大	48.25
2	辻 智彦	京都大	48. 57
3	秋本 耕作	大阪大	48.97
4	荒井 健太	名古屋大	49.27
5	小西 慶治	東京大	49.31
6	庄司 真	京都大	49. 41

800m

1	櫻井 大介	京都大	1. 54. 38
2	高森 一	東京大	1.54.56
3	中井 一宏	京都大	1. 55. 95
4	姫松 裕志	北海道大	1.57.07
5	松山 真也	大阪大	1.58.19
6	軽部 智	東京大	1.58.23

1500m

1	櫻井 大介	京都大	3. 56. 29
2	平井 健太郎	京都大	3. 56. 31
3	大竹 宏明	大阪大	3.56.76
4	横山 裕樹	京都大	3. 56. 98
5	三根 亨	大阪大	3.57.15
6	西尾 文吾	名古屋大	3.57.56

5000m

1	平井 幹	京都大	14. 46. 33
2	平井 健太郎	京都大	14. 50. 26
3	横山 裕樹	京都大	14. 52. 49
4	矢野 祥一	名古屋大	14.58.87
5	大竹 宏明	大阪大	15.07.06
6	池亀 透	名古屋大	15.09.36

110mH (-1. 3)

1	後藤 佑介	大阪大	14.67
2	赤羽 巧	名古屋大	14.83
3	戸川 洋一	京都大	14. 85
4	鈴木 久崇	北海道大	15.09
5	森永 侑樹	九州大	15.12
6	小野 雅博	九州大	15.15

400mH

1	千葉 優人	東北大	53.41
1	藤山 凌	京都大	53. 41
3	工藤 知央	東北大	54.99
4	宇畑 雄哉	大阪大	55.51
5	佐藤 優斗	京都大	56. 16
6	大津山 建	北海道大	56.30

3000mSC

1	尾崎 洋輔	北海道大	9.25.00
2	深渡 慎一郎	東北大	9.29.74
3	久好 哲郎	京都大	9. 31. 35
4	藤田 達郎	大阪大	9.31.36
5	森本 善智	名古屋大	9.33.74
6	古川 和紀	名古屋大	9.37.44

4×100mR

1	京都大	41. 34
2	大阪大	41.94
3	東北大	42.09
4	北海道大	42.19
5	東京大	42.36
6	名古屋大	42.75
	九州大	失格

4×400mR

1	東北大	3.17.79
2	京都大	3.17.89
3	名古屋大	3.19.61
4	東京大	3.21.52
5	九州大	3.22.52
6	大阪大	3.22.71
7	北海道大	3.24.97

走高跳

1	山田 健太郎	東北大	1m99
2	木村 克也	北海道大	1m99
3	菅原 知紘	京都大	1m96
4	工藤 健太	東京大	1m93
5	岡部 大輝	東北大	1m93
6	菅井 徹人	北海道大	1m90

棒高跳

1	若原 拓也	北海道大	4m70
2	高橋 拓実	東北大	4m60
3	細田 真広	大阪大	4m50
4	松原 洸也	東京大	4m30
4	上野 隆治	東京大	4m30
6	五十嵐 俊	大阪大	4m20

走幅跳

1	西村 優汰	京都大	7m36
2	渡辺 祥	大阪大	7m24
3	石田 真也	京都大	7m17
4	松下 隼人	京都大	7m17
5	岡崎 和貴	東北大	7m06
6	小口 伸	大阪大	6m83

三段跳

1	西村 優汰	京都大	15m04
2	渡辺 祥	大阪大	14m92
3	吉田 侑弥	東京大	14m48
4	岡崎 和貴	東北大	14m39
5	島田 勇毅	大阪大	14m37
6	北園 和也	北海道大	14m31

砲丸投

1	宮野 涼至	東京大	11m61
2	長沼 遼	北海道大	10m94
3	神野 洋介	京都大	10m74
4	戸川 洋一	京都大	10m69
5	酒井 義岳	北海道大	10m67
6	中川 将考	九州大	10m47

円盤投

1	中澤 密	大阪大	40m13
2	岩田 拓也	北海道大	36m02
3	石川 遼	東北大	35m43
4	徳永 卓朗	大阪大	33m41
5	神野 洋介	京都大	32m03
6	中川 将考	九州大	32m03

ハンマー投

1	崎 勘太郎	大阪大	41m70
2	宮田 大輔	北海道大	39m27
3	林 真幸	京都大	37m48
4	布川 拓未	大阪大	37m44
5	若園 直樹	京都大	35m54
6	三本 恭也	東京大	35m05

やり投

1	中澤 密	大阪大	67m77
2	神田 直仁	大阪大	63m72
3	目野 泰平	九州大	58m86
4	長沼 遼	北海道大	58m22
5	宮田 大輔	北海道大	57m44
6	伊藤 泰彬	東北大	56m78

七大戦女子記録

100m

1	釜谷美翔子	京都大	12.68
2	安藤 江里	九州大	12.74
3	中山 なつみ	東北大	12.75
4	一瀬 輪子	北海道大	12.76

400m

1	一瀬 輪子	北海道大	58.18
2	釜谷美翔子	京都大	59.69
3	金子 葵	名古屋大	1:00.17
4	下島 千歩	東北大	1:01.02

800m

1	鈴木 亜由子	名古屋大	2:15.12
2	後井 彩	大阪大	2:20.19
3	宮間 志帆	東北大	2:20.28
4	有泉 花子	北海道大	2:20.56

3000m

1	鈴木 亜由子	名古屋大	9:25.30
2	鈴木 絢子	東北大	10:13.19
3	田中 友里	京都大	10:15.16
4	井上 愛恵	北海道大	10:18.94

4×100mR

1	名古屋大	50.09
2	京都大	50.38
3	東北大	50.60
4	北海道大	50.71

走高跳

1	渡邊 朝美	東北大	1m50
2	中尾 優里	京都大	1m50
3	小林 知世	名古屋大	1m45
4	下島 千歩	東北大	1m45

走幅跳

1	森 美聡	名古屋大	5m47
2	馬越 茉鈴	大阪大	5m26
3	渡邊 朝美	東北大	5m18
4	中山 なつみ	東北大	5m18

砲丸投

1	武田 有希子	東京大	10m24
2	中島 由貴	北海道大	8m78
3	渡邊 朝美	東北大	8m75
4	良知 優奈	九州大	8m61

七大戦オープン結果

▼100m

吉田 繁治	11.07	-1.7
眞武 俊輔	11.14	-0.9
吉田 祐貴	11.17	-1.1
柏本 知晟	11.37	-1.1
長谷川 聡	11.41	±0.0
山崎 英治	11.53	-1.3
山田 諒	11.62	-1.1
山下 哲広	11.69	+1.3
前田 峰尚	11.72	±0.0
小野坂 健	11.73	+1.3
鈴木 將太	11.74	+1.0
前田 靖朋	11.77	±0.0
堀田 孝之	11.89	-2.7
桶成 智彦	11.93	-0.5
秋元 一志	11.95	±0.0
栗田 京典	12.01	-0.5
森田 悠也	12.10	-0.7
矢澤 学	12.16	-0.6
備藤 翼	12.17	-1.1
谷口 裕幸	12.24	-1.7
田中 智章	12.29	-0.4
猪原 章	12.31	-2.7
梶原 諒一	12.35	-0.5
田中 皓介	12.78	-2.7
夫津木廣大	13.19	-0.5

▼400m

横山 高広	50.54	PB
岡部 龍樹	51.35	
藤崎 淳	51.39	
佐藤 翔士	51.70	
山崎 英治	51.80	
吉川 慶	52.48	
柏本 知晟	52.48	
鈴木 將太	53.85	
猪原 章	54.15	

岡野 颯斗	54.45	
桶成 智彦	55.41	PB
豊本 竜希	55.62	
見鳥 大樹	55.65	
夫津木廣大	57.32	
橋本 浩法	57.78	
村瀬 颯登	61.83	PB

▼1500m

小御門 道	4.11.25	PB
新田 一樹	4.11.41	
櫻井 研吾	4.13.90	
松葉 悠剛	4.13.93	PB
宿利 隆司	4.16.39	
稲垣 達也	4.16.40	PB
森田 大地	4.18.21	PB
神埜 勝	4.18.46	
下迫田啓太	4.18.90	
松田 優拓	4.19.91	
作田 隆之	4.27.14	
山下 哲広	4.27.36	
岡野 颯斗	4.31.14	
内田 健弥	4.31.38	
堀井 大佑	4.32.32	
夫津木廣大	4.32.87	
橋本 浩法	4.33.78	
水元 惟暁	4.34.18	
橋本 宏平	4.34.90	
大川 亮	4.38.91	
川島 哲士	4.39.94	
村瀬 颯登	4.44.09	PB
南日雄太郎	4.45.79	
西田 峻	4.48.09	
古藺 智也	4.48.90	
大畑 耕治	5.02.15	
鈴木 將太	5.43.10	

▼5000m

新田 一樹	15.46.73		藤原 翠	13.96	-1.8
近藤 学宏	15.51.00		岩橋 優	13.97	-1.8
久米 祐輔	16.19.24		加奈山憲代	14.01	-0.8
小御門 道	16.20.03		山中 遥加	14.03	-1.8
櫻井 研吾	16.20.76		▽1500m		
下迫田啓太	16.23.36		岩橋 優	4.35.02	
森田 大地	17.14.80		泊 はつひ	5.26.77	
阿邊 啓明	17.15.58		小林香奈子	5.50.62	
▼5000mW			▽4×400mR		
樋口 裕磨	24.35.78		加奈山-泊	4.30.85	
西田 昌弘	25.31.19		-小林-岩橋		
多田 稜平	26.59.42				
大畑 耕治	29.34.11	PB			
▼4×400mR					
藤崎-佐藤	3.23.84				
-岡本-水谷					
眞武-堀田	3.26.57				
-長谷川-吉田					
岡部-新村	3.28.13				
-柏本-山下					
神埜-水元	3.40.09				
-宿利-浅井					
梶原-猪原	3.42.24				
-豊本-橋本					
栗田-桶成	3.43.88				
-森田-鈴木					
前田(峰)-前田(靖)	3.46.55				
-吉川-櫻井					
多田-樋口	4.07.21				
-西田-夫津木					
▼走幅跳					
松下 隼人	6.60	+1.7			
俵谷 侑吾	6.43	+3.6			
秋元 一志	6.32	+3.2			
田中 智章	5.73	+2.2			
鈴木 將太	5.38	-0.3			
不破 佑太	4.86	+0.7			
▽100m					



蒼穹ニュース 平成 25 年度 第 4 号

平成 25 年 8 月 5 日 発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部

編集者：俵谷侑吾・梶原諒一・岡野棕介（副務）

特別協力：樋口裕磨・山口昌太（学連員）

長崎裕貴（記録係）・岡田洋（HP 係）

写真担当：山田健太郎・豊本竜希・阿部健一

陸上競技部 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/index.html>

ミラーサイト <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Samos/2360/>

陸上競技部記録 HP <http://www.kusu.kyoto-u.ac.jp/~athletic/kiroku/index.html>

関西学連 HP <http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm>

メールアドレス kajihara530@gmail.com (梶原)